

歳時 世相篇

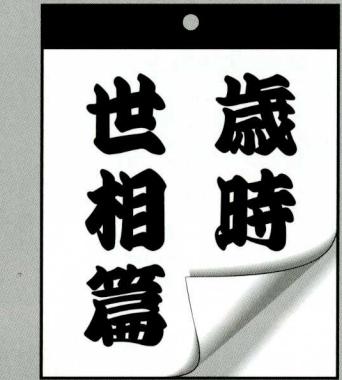
(11)

【バレンタインデー】

チョコレートの正体

ハ杉 佳穂(やすぎ よしほ)

本館民族文化研究部



チョコレート会社の企み

一月一四日といえは、バレンタインデー。バレンタインデーにチョコレートを贈ることを考えついたのは、当然のことながら、チョコレート会社である。愛の告白や贈り物をする日として、聖バレンタインデーを選び、チョコレートを贈る、それも女性から男性に贈ることを思いついた人はなかなかの知恵者に違いない。日本では、一九三六年神戸のモロゾフが英字雑誌にバレンタインチョコレートの広告を出し、一九五八年にメリーチョコレートが東京のデパートでバレンタインセールのキャンペーンをおこなった。そ

れがバレンタインデーにチョコレートを贈るようになった最初といわれる。だが、バレンタインデーにチョコレートを贈るそのもとは、イギリスのチョコレート会社のキヤドバリーのチョコレート・ボックスにさかのぼるというから、一〇〇年以上の歴史がある。

最初はいくらキャンペーンを張つても売れなかつたが、一九七〇年ごろになると、バレンタインデーにチョコレートを贈る習慣が広まりだした。バレンタインデーなどなかつたわたしのような団塊の世代のものでも、ほちほちチョコレートを義理チョコという名でもらうようになつたのが、一九八〇年代であった

ので、そのころからバレンタインデーも二月の風物詩として定着していったのである。今では、バレンタインデー・シーズンのチョコレート販売額は五〇〇億円あまりで、年間販売額の一～一二パーセントも占めるという。

食べ物？ 飲み物？ 薬？

チョコレートといえは、どうしても男性より、女性のものという感じがする。だから、年配の男性のなかには、喫茶店でココアなどを注文すると男子の沽券にかかる、といった気持ちをもつ人が多

いのではないか。とはいへ、最近は弱き女性たちにとって、長時間のミサに耐えるにはチョコレートがなくてはならないものになつていて。教会のミサのときに、召使いにチョコレートの飲み物をもつてこさせ、砂糖菓子とともに飲んだ。そのためチョコレートは食べ物かそれと

男女の区別がなくなつてきたのに呼応して、男性が「ココアを注文しても、チョコレートを食べても、全然恥ずかしくなくなってきた。だがチョコレートが女性のものである、たちが知りだし、一六世紀の後半にはすでにあつたようである。一六世紀の末ごろ、メキシコ南部のチアパス州では、か弱き女性たちにとって、長時間のミサに耐えるにはチョコレートがなくてはならないものになつていて。教会のミサのときには、喫茶店でココアなどを注文すると男子の沽券にかかる、といった気持ちをもつ人が多



阪急百貨店・阪神百貨店の合同企画で
おこなわれたチョコレート試食会
(写真提供:阪急阪神百貨店)

も飲み物かという論争のもとになつた。もしチョコレートが食べ物だとすると、断食を破るものとなるのだが、長い論争の末、最終的には、水に溶いただけなら、飲み物にすぎないということになつた。とはいえたチョコレートには、バニラや肉桂、砂糖などが入れられたので、単なる飲み物とはいえない。アステカ王モテクソーマは精力剤として飲んでいたというし、医薬品としても用いられていた。そのせいでもあるまいが、チョコレートは長いあいだ、催淫剤とみなされてきた。

チョコレートのもとであるカカオ豆コレートは長いあいだ、催淫剤とみなされてきた。そのせいでもあるまいが、チョコレートは誰でも食べることができるが、ヨーロッパ人が征服する以前のアメリカでは、王や貴族が飲むものとして考へられる。

「お金」から皆の好物へ

チョコレートは、現在誰でも食べることができるが、ヨーロッパ人が征服する以前のアメリカでは、王や貴族が飲むものとして考へられる。

に含まれるポリフェノールには、癌や動脈硬化などさまざまな病気の原因となる活性酸素や細菌の増殖を抑える効果がある。またカカオバターは緩やかな便通剤であり、消化器官を保護する。古代からずっと医薬品として利用されてきたのは、そうした効能を十分体験してきたからであろう。

のであつた。普通の人が飲むと命にかかるほど、貴重なものであつた。カカオ豆がお金であつたからである。なぜお金として利用されていたのかといふと、おそらくカカオの木は高温多湿のところであしか育たなかつたからに違ひない。そんな場所は、メキシコでいえば、ソコヌスコ地方やタバスコ地方など、ごく限られている。限られた量しかとれず、かつ生産を簡単に支配、調整できたから、お金として使われるようになつたのである。またカカオ豆が堅くてあつかうのにはどうい大きさであつたこともその理由として考へられる。

チョコレートの正体は、現在誰でも飲めるようになつたのであるが、ヨーロッパ人が征服する以前のアメリカでは、王や貴族が飲むものとして考へられる。

チョコレートのもとであるカカオ豆コレートは長いあいだ、催淫剤とみなされてきた。そのせいでもあるまいが、チョコレートは誰でも飲めることがあるが、ヨーロッパ人が征服する以前のアメリカでは、王や貴族が飲むものとして考へられる。